京城新報

●新聞料 一ヶ月前金三十五錢 ●三ヶ月前金壹圓 ▲郵税一ヶ月金六錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦 五月廿二日
發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

追想す花房公使（四）

翠山生

▲話變つて此の時大院君に於かれては、二十三日變亂の起ると共に長子李載冕を伴ひて宮中に乘り込み、國王に迫つて政權を一手に掌握するや同時に閔妃の外戚を驅逐し傲然天下に號令して衆望を一身に收めやうとした、併し此の騷亂が餘り意外であつた爲めに裏心窃かに前途の成行を氣遣ひて少なからず心を惱まされたのである、

▲サテ外務卿井上馨氏には政府の命を啣んで馬關に出張し花房公使に逢ひ公使に授くるに韓廷問罪處分の要領を以てした、依て公使には逐一其の意を躰して八月十二日再び仁川に着し次で十六日一中隊の護衛兵にひましめられて堂々京城に乘り込んだ、スルト又翌々十八日には時の陸軍少將高島鞆之介、陸軍少將仁禮景範の二將軍が海陸の戰員千五百を率ゐて雄風颯爽同じく京城に繰り込んだ、而して公使には同二十日國王に面謁し事變に就ての日本の要求個條書を提出し且つ回答期日を限るに向後三日間を以てした、

▲此れより先き時の參議金允植、校理魚允中等は所用を帶びて清國に渡つて居つたが彼等は此の不慮の出來事を耳にして非常に驚き、早速李鴻章に縋つて清兵の派遣を請ふた、ソレはソウと要求個條回答の日限が一日と過ぎ二日と數やし三日と迫つても韓政府より何の音沙汰もない……實は其の答之れツマリ日本の要求せし條件が頗る強硬の爲め危懼と不安との念に充ち滿ちて居る韓廷は清兵の來着を一日千秋の思ひにて待ち構へて居つたからである、

▲頓で韓廷よりの回答の日限は過ぎてしまつた、依て公使には高島、仁禮兩少將と共にいろ〳〵凝議する所あつたが其の結果期するところあり公使には同二十三日急遽濟物浦頭に赴いた、スルト間もなく清國北洋水師提督丁汝昌は軍艦威遠に搭乘し、廣東水師提督吳長慶を從へ三千餘の兵を率ゐて威風堂々南陽灣に至り又辦理朝鮮事宜馬建忠は陸兵百人海兵五十人を率ゐて京城に迫つて來たのである、而して彼等は上陸するや否や擾亂の巨魁なる者が排韓利泰に潜伏せるを探知し二十九日巨魁は言ふ迄もなく其の部下の兇徒百八十餘人を悉く縛にした、而して一方馬建忠は二十六日大院君を南大門の屯營に誘ひ出だして之を拘へ頓て汽船に投せて天津に送つたのである、

▲サテ斯う事の處分がつくと最早之れに就ての禍亂は氣支ゐがない、從つて昨日迄暗澹殺たりし京城の天地はひつそりとして靜穩の狀態に歸したのである、されど肝心かなめの內閣を從前の儘にして居つた日には何時又事變の發生するやも保し難きところから此の事が濟むと同時に內閣を改造し魚允中、洪英植、趙寧夏、金宏集、金允植等の五人が朝に立つた、而して內閣にては急に全權正副大臣李裕元及び金宏集を仁川に派し花房公使と修交條約を結ばしたのである、之れが即ち彼の濟物浦條約で時は丁度明治十五年八月三十日であつた、

▲所で今愛には此等條約文の內容に就て事新らしく記述するの必要はない、唯當時清國の政策が何の位機敏であつたかに就ては筆の序でに述べて見たいやうな氣もするが是は又問題が違つて餘波に亘るから何れ他日に讓ることとしやうが、兎も角も當年に於ける花房公使の苦心慘憺は一方ならぬものであつた……而り公使の事績は永世萬代に亘りて赫々たるものである、吁々花房公使……追想す花房公使……（了）

●五月中の京城商況（三）

（京城日本人商業會議所調）

△日本酒 邦人の入京增加するに伴ひ幾分需用增加の傾きあるも市況不振の爲め依然賣行捗々しからず亦釀造の際原料高直なりし爲め例年に比し一樽に付約五十錢內外の高値を示し居れり前月に比し相場に於ては變動なし

△麥酒及洋酒 麥酒は時節柄頗る賣行良好にして殊にサッポロビールの如き一般の氣受け良く盛に賣行きあり相場に於ては何れも二三十錢方下落を示せりヒースビールは八十錢方騰貴し其他は何ても賣行捗々しからずウヰスキーの如きは約五十錢下落せり

△金物類 官民諸工事の開始と共に浪板平板洋釘等は益々好況を呈し殊に本月に入り最も賣行良好なりき直段に在ては時局相場下落の爲め賃金の如きは百斤に付七八十錢の下落を見るに至れり

△紙類 前月は諸官衙の年度更新期にして諸官に需要を見しも本月に入りて商況に半紙常に於ける需要漸く不況を呈す元來紙類は夏季に入れば漸次其需要を減じ秋季に至り活氣を呈するものなれば本月に至り稍や不況を呈するは免がれざる處なり相場は一般物價の低落に連れ下落すべき筈なるも各年製紙原料不作なりし爲め格別の變動を見ず洋紙は每年の例により需用頗に減少し頗る不況なり相場に於ては格別の變動なし

△煙草 官煙は邦人增加するに伴ひ益々好況なり就中敷島の如きは大に日韓人の嗜好に適し賣行激增し各店共時々品切の有樣なり大和朝日ゴールデンバットの如きも敷島に次ぎ氣受け宜敷日一日其販路擴張しつゝあるの感あり又金口貨幣西班賣等官烟との間に於て競爭の有樣なるも到底官製煙の勢力に及ばず其他葉卷上等品に至りては別に著しき變動なし

小說 新不如歸（四十二）

篠原嶺葉著



足柄少佐が歸つて行つた後は又春の海の如き穏でろして暖い新夫新婦相對の座敷に復つた。

敏男は樂みに充たされた如き顏色で百合子を眺め、

「折角面白い話を爲て居た所をとんだ男に邪魔されたね、しかし彼の男も頻りに妻君を探してるんだがどうも氣に入つた女がないさうだ百合さんのお友達に美しい人は無いかね。」

「美しい方は幾人でもございますけれど、あゝ云ふ方は皆んなお嫌ひですわ。」

敏男は愉快さうに笑ひながら、

「奈何云ふ理で皆んな嫌ひなんだ畏いぢやないか。」

「だつて貴方然う申しては何ですけれども、見ても陸軍の將校とは見ないんですもの……私のお友達は皆んな脊がスラリとした色の白い鼻の高い口元の締つた男らしい丁度貴方のやうな方が好だと云ふるんですもの。」

「ほヽヽどうかお手柔にお願ひ申します、左も思う見ねても至つて初心だから然う言はれると眞に受けますからね、はヽヽしかし私は百合さん抔の一派からは好男子の候補者に推される資格があつて、足柄は資格がないと云ふ理なんだね。」

百合子も笑ひながら、

「ほヽヽ何だか候補者とか資格とか有仰ると議員の撰擧でも爲るやうですこと、ですけれど頭[illegible]郎と同じやうなお考へでお探しになるのは無理と云ふもんですわ、失禮かは存じませんけれど私何だかお顏見るのも可厭ですわ。」

「太く嫌つたもんだね、今頃は嘸嚔を爲てるだらう、奈何して然う可厭なんだ、豈夫百合さんに恨みを受けるやうな事もあるまいにはヽヽヽ。」

と、敏男は唯何の氣もなく云つたのであるが、此の恨を受けると云ふ辭は百合子の胸に犇と應へて、わらずとも先刻足柄の顏を見た時より一種云ふべからざる惡感に襲はれた、彼女が心は尚更に惡感を增したのであつた、抑百合子が足柄を嫌ふは人生自然の常情で殊に女性の常態であるのだ、何故かと云ふに兄義祐の秘密を其手に握つて罵詈讒謗を極めながら卑劣にも多額の金子を貪つて歸つたのみならず兄の弱點に附込むで其身を自分の妻に貰ひたいと申込むだ事があるのと、一つは良人と同じ參謀本部に勤務する同僚であるから若や其身に對する戀の怨はなかつた意恨よりして兄の軍人にあるまじき行をした其秘密を良人に告げるやうな事はなからうか、軍人にも似合ぬ卑劣な男だから決して告ぬとも限らない、若も秘密を告げた曉は此身は奈何なるのであらう、足柄と異つて眞の軍人氣質の我良人は今でこそ他一倍に愛して居て下さるけれど軍人の秘密を敵國に賣るやうな兄である事を聞いたなら決して此まゝ愛して下さるやうな事はあるまい、必然破鏡の嘆く悲しい境遇に沈むであらう、然うなる時は此身は路に捨てられた花の蹟と同じやうに世間に捨てられ、再び此世の樂しさは見られぬのであると思ふ、考へ及ばしたる果かくも足柄を蛇蝎の如く可厭がるのである

京城新報

新宮相閔丙奭

李允用依願免官となり、侍從院卿閔丙奭其後を襲ふて宮內府大臣となる、此交迭が如何なる動機によりてせられたるかは詳にせざれども、惟ふに李允用の傲慢不遜にして稍もすれば宮內府の整理を妨げんとする擧動あり、現に帝室財產處分に就ても極力反對せしと聞く、加之李完用と氣脈を通じて政治運動を爲せるが如き事ありて、彼が宮內府大臣として職權を揮ふに於ては到底府中の革新をなす能はざるが爲に此更迭は斷行せられしものならむ、果して然らば閔丙奭は之に恰當の人なりや、余輩は遺憾ながら閔丙奭は宮內府大臣として適當の人に非ざるを斷言するに躊躇せざるなり、此人を大臣とするは唯李允用と面を異にせるのみにて其實に於ては毫も異る所あらざるなり、統監が此更迭を是認したる眞意を知るに苦むなり、

抑も閔丙奭何人ぞや、彼が往時の經歷を顧よ、閔后在世の當時に於ては其帷幕の謀臣にして常に排日の策に餘念なかりし者の一人なり、日清戰役の際には平壤觀察使として淸國に加擔し、帝國の軍事及政策に少からぬ障害を與へたるは世人の今尚記臆せる所ならずや、其後日露の國交益々險難を加へたる時彼は如何なる行動を取りしや、彼が鐵道院總裁として京釜鐵道敷設に關して高潔なる能はざりしは亦世の知る處なり、余輩は彼が終始排日的行動をなしたることを責るものに非ず、一旦之を悔れば幷は消滅すればなり、然れども總ての局に當て高潔なる能はざりしは、謹嚴を要する宮內府の大臣たるに恰當なりと云ふ能はず、要するに彼は李允用に優る老獪の手腕ありと聞く、何事を巧謀するにも矢表に立たず陰に其策を弄するに尤も妙を得たりと、されば彼が李允用の麾下となりて表面柔和らしくて其謀策を助けたる所以ならん乎、其勢力に附隨することの巧なる韓政客中の隨一なりとの評あり、殊に李允用とは緣戚の關柄なりと聞く、由來勢力の下に明黨相集るは韓國の通弊なり、彼が李允用の下に驅せ參じたるも之が爲ならん、斯の如き人物を以て府中の長官となし其革淸を期せんとするは抑も亦難い哉、何故に硬直廉潔の人を擧げて宮內府大臣となし府中の一大革淸を計らざるや、余輩は閔丙奭を後任たらしめたるの意を解する能はざるなり、●宮內府整理に於て最も革新を要すべきは承●寧府なりとす、百事の禍根多く玆に出づるなり、此革淸を斷行せざるに於ては府中眞正の整理はなし能はざるなり、斯る重要なる革淸を遂行することを閔丙奭に望むべからざるなり、須らく硬直廉潔の人物を擧げて府中の大刷新を擧行せしむることを伊藤統監に向て勸告するものなり、

東京電報

▲タフト卿の指名

[illegible]於て七百二票の大多數を以て指名されたり（十九日東京經由）

●漢城便り

▲前大韓每日發行人ベッセルの罪狀も確定し一昨日を以て禁錮三週間善行六ヶ月保證金一千圓に處せられたる由に御座候記者は英國の法律が彼を罰するの意外に輕かりしに驚入申候

▲申すまでもなく此度こそ彼は半島より追放さるゝものと一般は相信じ申候併し法官は法官の見るところ有之ものと相見え申候大山鳴動して鼠一匹とは今回のベッセル事件の如きものを云ふならんとは道路の立噺に有之候

▲ベッセルの人物に就て或人の語るところによれば彼は昵近者には極めて無邪氣なる好人物に相見え少しく距りたる多數者には極めて如何わしき人物に相見え英本國の人などには誠意韓人の爲に盡す偉人の如く見ゆるなりとの事に御座候

▲臺灣統治志と拮抗すべき韓國に於ける統監政治の報告書は近々出版せられんと致居候が其索引にはありとあらゆる者を網羅しあると〻事に御座候併し外國人の最も注意を惹くべき銀行殊に中央銀行を逸し居候との事に御座候此頃統監が中央銀行急設を思立れたるは報告書中に銀行なる一項を加へんが爲なりとの事に御座候

▲伊藤統監の腦中に畫ける韓國中央銀行が如何なるべきものなるやを記者に向つて問ひたる友人有之候記者の答は下の如くに候曰く第一銀行韓國總支店を獨立せしめ從來の看板を撤して韓國中央銀行の新看板を揭げしむるのみと

▲記者の推測當るや否やは別問題として由來何事に就ても統監の遣口は如斯ものに御座候蒔かずして刈るは藤公の得意とするところに有之候只算盤を握つて渡世を爲す兜町が直ちに看板取換のれ受けを爲すや否やは疑問に御座候

東京電報

▲副統監歸任期

曾禰副統監は齋藤海相の歸京を待合せて會見の上本月下旬歸任すべし（十九日發）

雜報

●ベッセルの宣告

支那及韓國に於ける英國大審院は一昨十八日午後四時總領事廳內に開廷したり形の如く告訴人三浦理事官は檢察官ウイルキンソン氏と共に左方に席し被告ベッセル氏は辯護人クロッセー氏と共に右方に席し判事ボオン氏は上席を占め其他二人の記錄手は下方に着席せり暫くして判事は判決理由書を朗讀し被告を禁錮三週間善行六ヶ月保證金壹千圓に處するの旨を申渡したり被告ベッセル氏は一揖して申渡しを受け判事は被告辯護人と被告禁錮の場所に就て談するところあり四時三十分を以て無事閉廷せり此日の傍聽者は統監府及韓國側の官吏外國新

●韓國寫眞會　同會の現在會員は八十[illegible]名にして幹事は板橋梧柳氏淺見倫太郎氏外八氏なり寫眞に趣味を有するものは何人にても入會するを得べし會費は毎月三十錢なり今回同會發行の印畫集第一號は鍋島南畫[illegible]氏其他の秀撥を蒐め極めて高尚幽雅なるものあり（因に寫眞會事務所は京城本町四丁[illegible]）との說あり

聞通信員、頭本、峯岸の兩氏京城在留の外國人男女數十名并知具及數名の韓人なりしと

●參贊許爲

既報の如く暴徒の首魁として就縛せし前議政府參贊許爲は慶尙北道若山の產にして常に京城に住し兩班たり曾て成均館科擧に登第し現今大官中漢學を以て鳴り李道宰李容植、申箕善、金聲根、韓圭卨、金鶴鎭、閔泳韶等に推重せられ其要職に就けり而して彼れ在職中は常に日本公使館に出入し一時漢城の舞臺に盛名ありし玄暎運等とは義兄弟の約を結びて其行動を一にし略大勢に通じ多少の新智識を有するに拘らず日露開戰初期の日韓協約に反抗し憲兵隊に捕はれ永く南大門內の獄舍に呻吟せり當時同盟者の言に依れば僚友玄は日本に誘致せられたるのみならず周圍の狀況殆んど策の施す處なるを以て遂に憂悶不平に堪へず極力之に反對したるものにして飜て身は今や獄窓の裡に苦む是皆日本公使館不法の處置に胚胎せるものとなし憤怨の態ありしと云ふ爾來不遇世と容れず物變り星移り僅に親戚に寄食して京城の住宅は他に賃貸し家屋は典物として借財あり竊に人をして之を賣却せしめんと奔走中なりしと聞く而して許爲が暴動を起したるの眞意は固より之を知得すべからずと雖も其初め昨年舊六月下旬京城住人前沃溝府尹滲永運を伴ひ楊州居住の宦官權錫斗、李敬和を訪ひ軍資糧秣供給の約を結びて京に歸り舊七月三日金鳳基の名を以て「謹告伊藤博文」「告各國領事文」「全國同胞布告文」「論一進會文」と題する檄文を配布し（金鳳基は昨年警視廳に捕はれ檄文は自己の筆に成ると云ひ又許爲の作なりとも云ふ）走て京畿道交河郡前勢道閔泳達に倚り轉じて鐵原に移り暴動を起したるの形跡あり今や縛に就きて囹圄にあり之を要するに許爲は數回の拘禁に遭ひたるのみならず進まんとするも官職を得ず退かんとするも窮乏身を措く處なく一身の不平困難事是に至りたるに非ざるなきか

●伊、服二氏の惜別

豫報の如く前京日社長伊東祐侃氏同主筆服部暢氏に對する京仁記者團惜別の宴は一昨日午後八時より花月樓に於て開催せられたり出席者は各社の代表者及通信員の諸氏三十餘名にして宴酣なるや大村大朝氏發起人を代表して主賓に挨拶を爲し續て伊東服部兩氏の謝辭あり後三四氏の演說あり共に熱誠なる言を以て兩氏を記者團より失ふことを惜めり夫より一同杯を擧げ歡を盡し散會したるは殆んど十一時なりしと云ふ因に當夜は記者團外の特志紳士數名の出席もありたる由なり

●外國通信員饗應　統監府外務部長は今回ベッセル事件の爲態々來城したる米國聯合通信員其他を一昨夜花月樓に招待し丁重なる饗應を爲したりと云ふ

●朴氏釋放說　昨年八月治安警察法に依り濟州島に追放せられたる當時の宮內大臣朴泳孝は今回特赦せられ近々歸城すべし

●●●●●●●●牛皮鑑定價格引下げ　牛皮及大豆等の鑑定價格引下に就いて仁川商業會議所書記長萩谷氏が再三仁川稅關に交渉したる結果愈々昨日より牛皮の價格二十七圓なりしを二十四圓に引下げたるが大豆及小豆の價格に就いては大豆のみを値下する時は他品騰せる米大麥等は隨つて値下せらるべしと

●●●●●仁川會議所選擧　仁川商業會議所議員の改選は愈々本日民團役所樓上に於て左の時間を以て執行すべし

一級（定數四名補缺一名）	午後四時より同五時まで
二級（定數四名）	午後一時より同三時まで
三級（定數四名、補缺一名）	午前九時より同十時まで

●●●●●●仁川の民刑訴訟　久しく休止の姿なりし仁川理事廳民刑事訴訟は新任副理事官高木由太郎氏の着任を俟て進行する筈なれば多分來る二十三日頃なるべし

●演藝會慰勞會　愛國婦人會慈善演藝會報告慰勞會は一昨日午後三時より日本人倶樂部に開催せられたるが岩崎、石川、道家、李玉卿、大屋、兼古、津輕、頭本、中村、村上、久保田、熊谷、山口、松井、古谷、淵澤、兒玉、香阪、小宮、國分、佐々木、木島、京口、三浦、峰尾の各夫人、工藤軍樂隊樂長、松村藥劑官、三宅神官及令孃、兒玉相談役矢橋主事等出席慈善演藝會開催に關し委員諸子の盡力と京城龍山有志者の協同とに依り左記の通り好結果を得たる旨の報告あり尙活人畫に出演したる令孃方には紀念品を贈呈することを協定し終て別室に於て質素なる立食の饗應あり一同歡談に時を移し午後六時散會したり因みに本部長鍋原夫人は委員諸子の盡力に對し深謝の電報を東京より發せられたり

慈善演藝會收支報告書

收入總高　一金二千九百五十五圓三十八錢

內譯

金三百圓	伊藤公爵寄附金
金三十圓	長谷川子爵同
金二十圓	岡崎男爵同
金二千五百九十四圓六十八錢	入場券料
金十圓七十錢	雜收入

以上

支出總高　一金八百九十五圓二十錢

內譯

金百二十五圓四十五錢	劇場一切費
金五百五十圓（奏樂、劍舞、講談）	演奏者挨拶
金三十五圓五十錢	印刷費
金九十七圓七十九錢	會場諸賄費
金二十八圓七十一錢	人力人足賃
金十五圓二十五錢	用紙類及諸雜費
金四十二圓五十錢	座方手傳者小使等心付

以上

差引金二千六十圓十八錢　收益金

右の通りに候也

明治四十一年六月十八日

●漢城園藝協會

同會は本月六日日本人倶樂部に於て開きたる發起人會に於て座長石川石代氏は指名を以て黑田太久馬、李會九、矢野南松、黃鎭國、井上久藏の五氏を幹事と爲し幹事は互撰を以て黑田氏を幹事長と爲し會の組織全く成りたるを以て今回愈事業に着手することゝなれりと云ふ尙同協會の設立趣意書及規則は左の如し

漢城園藝協會設立趣旨書

朔風凛烈何等の趣味なきは冬季の漢城なり此時一枝の梅花床上に香ふ豈風韻なからんや炎熱紅塵避くるに地なきは夏日の漢城なり此時卓上の松柏其の翠を競ふ聊か我心を慰するに足る由來花卉を愛し蔬菜を好むは人性の自然なり思ふに社會の文化漸進み人類の品性益高きを加ふると共に其自然を愛する尙深きに至るべし我等同志相謀り爰に漢城園藝協會を設立し左記條項に依り會員を募集し同好の士と品性の向上を謀り其趣味を共にせんと欲す請ふ入會あらんことを

一、本會を漢城園藝協會と稱す
一、本會は四季折々の花卉を會員に頒ち愛養の趣味を鼓吹し漸次事業の整頓するに從ひ果實蔬菜の培養を普及し園藝の進歩を計り且つ相互の親睦を以て目的とす
一、本會々員を分つて左の三種とす
　通常會員　特別會員　名譽會員
一、通常會員は會費として毎月五日迄に金貳圓を納むべし
一、會員は會費を納むるの外何等の責任なし
一、本會會費の外金貳拾圓以上を一時に寄附し又は園藝に經驗あるもの若は本會創立に盡力せしものを特別會員とす
一、特別會員は評議員會に出席することを得
一、本會の事業を贊助せらるゝ貴紳又は園藝の大家を推して名譽會員とす
一、評議員の互選に依り幹事五名を置き會務を處理せしむ但內一名を幹事長とす
一、會員中より評議員若干名を選び會務を議定す
一、本會に書記若干名を置き幹事の指揮を受け庶務に從事す
一、幹事及評議員は名譽職とす
一、幹事及評議員の任期は一箇年とす但し再選を妨げず
一、必要の時に會員總會及評議員會を開く
一、會員には五日乃至十日每に新しき盆栽貳個を配布し舊き物と交換し且つ時々教師を巡回せしめて培養法を傳授すべし
一、會員にして同時に盆栽參個以上の配布を希望するときは會費の外壹個每に壹個月金五拾錢の割合を以て損料を納むべし
一、會員自宅に於て賞翫中故意に盆栽枯損せしときは相當代品を寄附せしむることあるべし
一、本申合規約第十五項第十六項の實行は幹事に於て適當なりと認むる者へ契約を以て之を受負はしむることを得
一、本會假事務所を京城旭町三丁目井上久藏（電話二一二二十一番）方に設置す

●[illegible]は在職中認可を受けず內部に於て施行の郡主事試驗に應し合格したるにより病と稱し辭職願を提出したるを以て誓約年限內[illegible]に轉職を企つる者として去る十六日懲罰免職

●仁川通信（仁川支局報）

▲再言　地主派が四十年度稅金納付の義務なしと主張せしは其正否は措て置き兎に角賦課手續に於て制規に反する所あるを以て法律上當然其義務なきものといふにあるを以て是れは其言は何等か法律上根據あるものゝ如く思惟せらる然るに今に至り强制執行處分を受けて文句なしに之れに服すべしとは何人も思はれざる所なるべく、從つて本問題は遂に抗告となり次いで法庭上に其曲直を爭はざるべからざるに至るは勢ひ止むべからざる結果にあらずや

▲若し　事態斯の如くにして萬一民團側の敗訴に歸するが如き事あらんか、民團理事者の身邊に及ぼす影響は言はずもがな、民團自治の上に如何なる擾亂を來すべきか、思ひ此處に至らば仁川居留民は拱手傍觀するに忍びざるものなきにあらず、竊つて思ふ萬一本問題が今日の狀態に於て無事經過したりとせんも理事者の責任は到底免るべからざるべく、監督官廳は必ずや之れを看過せざるべくと存候

▲元來　本問題の因つて來れる原因は果して何れに存するか四十一年度の土地稅は遂に三割五分の引下をなす事に民會は議決せり、然らば嚮きに四十一年度豫算會議に於て決議したる賦課稅は失當なりしものなるや明、然も之れが二三者に對する賦課稅ならばいざ知らず、百餘名に關する土地稅に於いて此れを見るに於ては其罪寧ろ理事者にあるにあらずして實に民團議會にあるものと斷せざるべからず、然るに罪を一に理事者にのみ科するが如きは謬れるの甚しきものなるや言を俟たざる所なるべくと存候

●漢城衛生會　昨日午後二時より京城理事廳に於て漢城衛生評議員會を開き水道會社の水量の件につき協議せり

●民長視察團を招待す　熊谷居留民團長は昨日午前北陸新聞主催滿韓視察團西崎順太郎氏一行二十一名を民役所樓上に招待し韓國經濟上の現狀及京城の現狀に就て一場の談話を爲し了つて晝餐を饗したり

●●●●高瀨副理事官　內地に於ける各監獄署を視察したる同氏は一昨夜無事歸廳せられたり

●●●●●●矯風學術演說會　京城禁酒會の主催に係る同會は昨夜名古屋城內日本メソヂスト教會に於て開催せられ聽衆殊の外多く非常の盛會なりと云ふ

●●●●●●●●●平石關東都督府法務院長　關東都督府高等法務院長平石正人氏は書記岡田重善氏を隨へ昨日下仁同理事廳を訪問し大浦通譯官の案內にて市中を巡覽し午後船便に依り任地に向へり

●●●●●●岡野告天子來京　大坂朝日新聞奉天特派員岡野養之助氏は過日來歸坂中なりしが歸滿の途次一昨夜入京大村琴花氏宅に投宿中なり

●滿韓實業視察團着京　既報の如く石川縣滿韓實業視察團總員二十二名は昨日午前六時着京山本旅館に投宿せり一兩日京城視察の上滿州に向はるゝ由猶本日は民團役所に於て茶菓の饗應ありたり

●●●●●井上書記長　大邱商業會議所書記長井上宗之助氏は來仁同地會議所を訪問せり

公人私人

▲深澤新一郎（京城地方裁判所判事）は一昨來京辻りつ方へ投宿

▲小野政太郎（同區裁判所判事）は山本旅館

●近事片々

▲昨來　突如として內閣更迭報傳はりぬ素より例の揣摩臆測ならんも氣運漸に進轉す

▲總理　尹用求內部申箕善度支閔泳徽軍部尹雄烈法部兪吉濬と役割迄定ての風說類也

▲現閣　の更迭が一般に豫期せらるゝは事實也大勢到底永く支る能ざるべし如何にや

▲朴泳　孝赦免の風說有從僕の迎ひに行きたる事も言囃さる是れは恐らく事實ならん

▲泳孝　も隨分不運の人否廢世に下手なるか今度は懲りて下手に間誤つかざるならん

▲開說　く泳孝の流罪は或る者の犧牲に供せられたるも也と併し今更死兒の齡は數へぬ

▲泳孝　歸城の暁と共に宮內府大臣任命の說持上る何と素早い何ぞ風說製造の多忙や

▲天下　は廻り持亦尹雄烈や閔泳徽の名前が呼ばるゝ事となる待てば甘露の日和あり

▲昨今　の韓政客連の多忙さ加減驚くべし何を御苦勞に縱橫に奔走することぞや唯失笑

▲地方　官制の改正をなすと如何に改正するも今の觀察使では其運用出來ざるべしと

▲官制　の改正より觀察使其人の撰擇ぞ更に注意せよ唯日語を操る牛可通は役に立す

▲過日　李根澤邸に現閣員と元老組との茶話會開かれたるとき主人の根澤大氣焰也と

▲根澤　近來野心勃々如何にして勢力を扶植せんかと日夜苦心慘憺せりと或は然らむ

▲玄暎　運近來頻に淪落して昔日の面影を留めず借金に苦しめられ靑息吐て居れりと

▲今更　に貞夫人を再び迎へて嬌腕を揮はしめては如何貞氏に離て淪落は男が廢るぞ

▲暴徒　の巨魁許蔿捕縛され憲兵隊に送られ來ると先づ一方の頭を挫きたり借も快也

▲更に　倘ほ一二頭領を捕うれば暴徒の頭腦は先づ枯れたる同然早く其報を聞まほし

▲慶應　義塾の內紛今に納らず鎌田塾長の排斥運動生徒間に起れりと侍忠はしき事也

▲新島　襄逝きて同志社衰微福澤翁逝きて兎角[illegible]評面白からず人物の力の偉大を知る

▲寄取　長谷川罵倒して曰く總理は後藤か寺內を可とす西園寺松田等は到底駄目と

▲川上　眉山自殺は惜むべし文士に不健全の思想を持つ人多し更に痛歎せざるを得す

諷詩林

何日平

言君之不能臣分義。責人臣之難主不明。朕不德歟臣過歟。累卵形勢何日平。字々熱血溢詔紙。讀之不泣非臣子。中興偉業眞此時。須一衆志擧國是。先憂後樂古今同。奮發勵全始終。寄語新任各觀察。誰拜此勅抽精忠」君不見官匪土匪如虎狼。民命財產空荒涼。十三道中無寧處。京城以外是戰場。

▲タフト卿の指名　東京電報

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□於て七百二票の大多數を以て指名されたり（十九日東京經由）

●韓國宮興會　同會の現在會員は八十餘氏其他の秀指を蒐め極めて高尚幽雅なる名にして幹事は板橋梧柳氏淺見倫太郎氏外八氏なり高麗に趣味を有するの士は何人と雖も入會するを得べし會費は毎月三十錢なり今回同會發行の印譜集第一號は鍋島南僊…（因に宮興會事務所は京城本町四丁目一三番…）…との說あり

●朴氏釋放說　昨年八月治安警察法に依り濟州島に追放せられたる當時の宮内大臣朴泳孝は今回特赦せられ近々歸城すべしとの說あり

●□□□□□　…在職中認可を受けず内部に於て施行の郡主事試驗に應し合格したるにより病と稱し辭職を提出したる…轉職を企つる者として去る十六日懲罰免職…

官吏本位の京城（六）

雑報

▲下女の奥様

一体から云へば内地の腰辨などは下女を使うだけの餘裕が無いので其の細君は誠に慘酷な者で、脊に孩兒を括り付け乍ら朝から晩まで煩り返りつゝ立働くのである、然るに京城に於ては大に之と趣を異にして、譬へば判任何級かの腰辨も内地の高等官以上の收入がある處から自然と内地にありたる時とは態度が異なつて來る、先づ彼等が渡韓當時は十六世紀時代のフロックと茶の中折は四年以前から着用に及んだと云ふ履歴附きの者とが唯一の身上で外には着任後初對面の上官殿に具藥として土産の鹽煎餅か何かを一包み、これだけが當人の手荷物であつたソウだが着任後は少なからぬ御手當を頂戴する、所謂官舍を支給さる、夫れはノ〳〵福德の三年目、有難い事には永年干物ばかりを喰はせて置いた郷里のお袋にも幾分かの送金も出來る、妻子は何れ呼び寄する者とするも尚夫れ迄月々幾何宛を送つて遣る、フロックの新調、毛皮の外套、大凡そ本人生來未だ嘗て着用に及んだ事無き品のみを誂ねて、意氣得々虎の居る國、寒い國と謂いたる韓國も僞うなると金の降る國温い國と云ひたくなる……よ君とか、何とか太平樂を並ぶる、左右なる内追々慾に際涯なき人間の本性を現はして、閨房の淋しさと郷里の糟糠の妻が戀しくなる、サア戀うなると兒の二人もある妻君に初戀かの何かの樣に戀の八千たけ長い文を送くる、郷里に於ては無論其の積り、早く旅費を送つて呼び迎ねて呉れば宜いがと思ふて居る矢先、夫の手紙に飛立つばかり喜んで早速仕度に掛る、處で、好事魔多し、其儲亭主の許に進んで來らるれば別に文句は無いが皺くちやのお袋が承知せぬ、此の年寄を一人置いてドウする、朝鮮と云へば遠天竺の隣り國、其の遠方に二人共行つて終へば後は如何なる、最う年寄に要が無いから捨つるのかと云ふのかと涙交りの抗議が出る、妻君では判任殿妻の手紙を見て感懷措へ難き者がある、偖て月給廿五圓、官舍と鷄肉のアラとが一家四口の唯一の御馳走であつた者だ頃は五圓の増給を待ちくたびれた者だ、勿体なくも百餘圓の收入ある身さへも發田を嫉する、斯くても我慢の出來ぬ者あば年連れ添ひたる妻とは山海萬里を隔てゝ、一つの月を西東、ホンに儘にならぬ浮世を奈何せん、妻に更らに氣安めの手紙を出した其の夕方、ボイと飛び出した判任殿、大凡そ十數年來理想の女郎買をやつて見る、大に豪なりけりだ又行く、續いて行く四回五回遂に月末に及んで大恐慌、これではならぬと某處は老い先蹤に見習いて早速口入屋に下女の周旋を賴む、官吏本位の京城だもの、官舍住居の妻君無し、月給百圓の御人と來ては何の異議があらう、忽ち一を以て二を兼ぬる當世新式の斑髮、脊では里の芋畑に於て蛇に睨まれたと云ふ髯振り立てゝ緊りに應じた、斯くて郷里の細君が二人の兒供とお袋とを相手にお□に痩せて行く程此方は下女のお腹が膨れ出す

韓商と日商の影響（破産）

仁川韓商の間に於て最も信用厚く且つ最も新知識を吸收せる文明的商人として知られたる雜貨商姜鎭曉氏が破産逃走の悲境に陷りたる事既報の如くなるが同氏は十八日夜深更延安に於て同地警察署の手に捕へられ本日歸仁する筈なるが同氏の關係者一同は氏の歸仁後集會して善後策を講ずる筈なるが同氏の負債は本日迄に分明せる分のみにても二萬三千圓を計上するに至られれば之に韓人側の損害を加算する時は意外の巨額に達すべく同氏をして丕々倒產せしむる時は其影響する所豫想外に廣く踵で破產する者四五軒あり且つ今回の事件は專日清韓三商に係ることゝなれば惹いて今後の商取引に與ふる影響甚だ寒心すべきものあるを以つて此際關係者は多少の不利を忍んで圓滿なる解決を爲す筈なりと云ふ

●新昌の物價　咸鏡南道北青郡新昌附近に於ける物價は左の如し

大麥一石五圓五十五錢、大豆一石五圓、高粱一石六圓十二錢五厘、藁一貫目三錢二厘、精米一石十八圓、薪一貫目四錢三厘、炭一貫目十七錢、木綿一尺に付五錢五厘、絹布一尺十七錢七厘、鹽一石十二圓、明太魚一駄十八圓、生魚一貫目三十錢、牛肉百匁十七錢、豚肉百匁二十錢、鷄一羽二十五錢、鷄卵一個一錢

●韓國鹽業調査報告　及參政事項調査書は今回度支部より發行せられたり一讀擴業及參政を知るに便なり

●韓國郵便電信電話案内　今回通信管理局にて發行せられたる同案内は通信事務に關する手續心得の全体を網羅し頗る重寶の書なり

●南山本願寺說敎　今夕は土曜日につき午後八時半より說敎あり

李允用の寵妾山月

大同江の流れ、牡丹臺の風景は凝て美人を生む、實に平壤は美人の本場と聞きぬ、昨日まで宮内府大臣として飛ぶ鳥も落すべき勢力ありし李允用の寵妾山月も亦大同江の流れに沿へる一小村落の生れと聞きぬ、生れつき、其性質から怜悧にて而も山月は猶化の地か部には稀なる容貌にて、其儘に發達すれば行末は如何にならむと常に村人の噂に上りぬ、芳紀將に十五六となりぬれば愈々美しく玲瓏玉の如く、村の若者等の密かに言ひ寄るものも多きが中に近村豪家金某なる一人息子は戀の奴となり、人梯かけて嫁に貰ひ受けむとしたるも、兩親も娘も何故か深く拒みてこれに應せず、爲に豪家の一人息子は戀の爲に氣鬱して病の床に付きぬ素より豪家の事迚醫藥の療養には事を欠かねど思ひは募りて今は其命旦夕も計られぬことゝなりぬ、人の命の助ることゝなれば今一度無理にも縁談を申込まば、如何に氣強き親娘なりともよもや厭とは云ふまじと親切に言はるゝまゝに悔しけれども禮を厚ふして賴みけるに、親娘のものは情を解せざるか將た他に深き理由のあることか更に肯せず、御厚意は受けまするが或る仔細ありて嫁には遣さず近き中に都に上さすべしと斷りぬ、これが爲に病める一人息子は其答を聞きて落膽し終に歸らぬ黄泉の客となりにける、

偖も其後親娘のものは所有の財產悉く賣拂ひて都にこそ上り來りぬ、此親娘が住み馴れし古郷を捨てゝ都住ひを企てしは深き所存のありてなりとは後にぞ思ひ知られける、娘の美貌と其悧發とにより權門に出入の端緒を開きあはよくば娘を與へて其緣により權勢を得て昔の榮華に復せんとは此親の心なりき、夫れには宮妓にするこそ近道なれと娘にも其意を明かすれば怜悧にして野心に富めることゝて、如何で之を拒むべき、妾も其積りにて却て妾より之を申出でんと思ひし處なりと健氣なる返事に、兩親の喜び一方ならず直に人を介して官妓となしぬ、山月てふ名前も此ときに附られたるなり。

而して間もなく親子の覗う好き鳥こそ掛りたれ、そは當時權勢並びなき大院君の鮒馬にて而も美男子なる允用の君に見染められ山月も亦この若殿ならば美男でもあり才氣もあり行末の出世ぞと身を任かすに至れり密の如き情交は益々進で終に因果の胤を宿すに至りぬ、玆に於て允用君は大枚の黄金を出して手活の花とはなしぬ、偖も月滿ちて生れたる男兒こそ宮内府に勤め居らるゝ李某にぞある、これよりは山月は允用の知嚢となりて百事の謀策この女性より出づることゝなりぬ（つゞく）

●怪しき寄附募集員　東京廢兵院の寄附募集員と稱して近頃便城…其他の官令を翳し金品を强請するものあり…記者は廢兵院に於て寄附募…ない而して此の威を抱くものは只り…との由なるが…

●獸疫發生す　一昨十八日午後一時頃楊州郡銀杏亭里居住韓人某が一頭の牛に薪を負はしめ西署盤石坊藥峴下洞を通行中突然其の引き來りし牛が卒倒せしより早速手當を施せしところ終に死亡せしより其の旨所轄警察署に屆け出でしかば直ちに係官出張し檢視したるに牛は牡牛にして病名は疑似炭疽なりしかば鼻中及び肛門を密塞し前記藥峴下洞を距る一町餘の所に六尺餘の穴を掘り埋沒したりといふ

●無法なる喧嘩賣り　一昨夜二時頃南部署に若草町一丁目九十番戸加藤殻太郎方同居井上なる者より毆打せられ頭部に負傷したる旨訴へ出たるものありしかば同署にては直ちに河野刑事をして加害者井上を同行せしめ取調べたるに元來被害者として告訴したる男は大分縣速見郡別府町の者にて目下櫻井町に居住する大工職渡邊友吉と云ふ者にて友吉は同夜九時三拾分頃加藤方に至り酒を出せとて加藤に酒を出さしめ之を飲みつゝありしが此際同居人の井上事大坂府泉南郡沼野村大字別處大工業小林長吉（三十）が建築用の製圖中なりしを見て之に酒を强ひながら建築請負などの話しを持掛け彼此と五月蠅喧嘩を賣らんとするも我慢して一向に取合はざるにぞ友吉は何と思ひしか傍にありたる皿を取るより早く長吉を毆り付けしかば長吉は之が爲め腹部を負傷するに至りたるにぞ長吉はモー堪忍ならぬと怒り出しあり合ふ德利を以て友吉の頭部を毆り反したるにぞ友吉は大に辟易し己れ見居れと其儘同家を立出で自己が喧嘩を賣りながら反對に毆打創傷の訴を提出したる次第なりと判りしかば兩人とも毆打犯として其儘留置せられたりと無法なる男もあるものかな

●俗調●　吉崎

今日ころ日頃の願が屆き　手鍋厭はぬ亂れ髮
汗をながしたましや行水の　浴衣鴨門の阿波ちやみ
渡しの船でも夕立雨にや　一船おくれる事もある

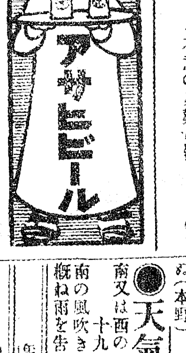
▲塵芥掃除に就て

京城の塵芥掃除（衛生機關）は三派鼎立して居る即ち居留民團側と警務廳側（即ち韓國）と清國領事館側とであるが斯の如きは甚だ面白からぬ結果を生ずるものである、當事者は宜しく協商したら何うか▲□□では別段不都合を感ぜぬか知らぬが韓、清人と雜居して居る所謂居留地以外の住民は之の三鼎立的衛生機關の運用の不融通なる爲めに數々迷惑を蒙つて少ない而して此の感を抱くものは只り吾人のみであるまいと思ふ▲例へば韓國側で韓人の塵芥掃除に來ても日人若くは清人の放棄したるものであると認むれば此れは當然居留民團側で掃除すべきものであると放言して歿へて行つて呉れぬ▲サ斯くの如き不融通の運用による迷惑は三者共通である更に臭氣の發散、蠅蚊の媒介より來る惡疫の發生となつて來ると其迷惑するものは塵芥捨て場の近所に住居する五七軒のみでない▲人界人道の爲めもチト大袈裟だが兎に角一つ此の合同を實行して貰ひたい▲自家自衛と云ふとは善いことだが吝嗇な根性からのソレは見つとも好いことでない（孤鷲生）

●投●書●

…て可なるも釜山に八時間碇泊することは望み得べからざれば……（小僧）▲假令三度の食を減ずるも當紙の論說を見ざることは能はず其效十年の苦學に勝るもの有之候（黃州愛讀生）▲南山町の夫婦ずしは近頃トント味が落ちた奮發すべきである（堂志太）▲本町座の蜂松一座は氣の毒な程入りがないこれは蜂松一座が未熟の爲めでもなく又不景氣の爲めでもない原因は木戸番及ご出方の傲慢なるが爲めである（眞言生）▲誰れが何んと云つてもビールはキリンに限る（朴賀對手太）▲京城、即ち韓國第一の大都會が現今の如く糞尿の臭氣に鼻を掩はねば通行が出來ない樣では地方に暴徒の跡を絕つことは六ツ箇敷い（憤慨生）▲倭城臺に上つて京城の夜の景色を見ると一種清爽の感が湧いて來る併し彼所にも此所にも聞いて居るさへ恥かしい談話を交換する男女の影を認むるので（困却生）▲隔離坊君よ至急現住所を例の所迄知らせて呉れ玉へ何んとしても彼の君が可哀相だもの（エチ、ケイアイ）▲南大門の雨覆を毀つて南大門其のものゝみをア、して殘して置く必要が何處にあるかならば南山公園にでも移すがよい現在の儘にして置いた所で何んの感興も起りはせぬ（本野）

●機關車に觸れて負傷す　西署蓬萊町二丁目十四番戸三浦隅吉方雇人南大門驛ホーム內辨當販賣業賣子柳迫鷲郎（二十）は一昨十八日午後八時五分南大門停車場構内西側第二レールの機關車より北方約十五間程の轉轍機設置の場所にて仁川行下り列車の機關車に觸れ負傷したるが傷所は右腕胕部挫折し及び其の他顔面一体に擦過傷を負ひたるも生命には別條なかるべしといふ因に同人は自殺を圖りしものにあらず一時の誤りよりかゝる不意の災難に罹りしものなりと



●囚徒の逃走　水原監獄に在囚中の韓囚二名は一昨夜同監獄を破り逃走したるを以て目下嚴重に搜索中なりと

●棄兒　去る十六日午後十一時頃宗橋派出所巡査鳳橋が管内巡回中長興橋下に男兒の棄兒ありしを發見せしかば直ちに之を保護し本署に連れ行きしが生後百日位を經しもの如く身には白衣を着し居れりと因に韓國の舊習として農民の兒は一時或時日を限りて何れへか遺棄する由なれば或はソレ等の風習に基きたる者ならんといふ

●質布泥棒發生　京城旭町一丁目百四十六番戸茶谷格一郎（三八）は十八日質布泥棒に罹れり

●本町座替り狂言　本日の藝題は嫁ヶ淵にして重なる役割は鈴木平三（いろは）春越文隆（石巻）江川定吉（稲村）黑川忠平（葉山）下宿やれ婆（濱江）川れ糸（尾崎）娘お穂（玉井）泉分助（小泉）醫師原田策二（秋山）代議士井原猛夫（青山）井原月子（坂本）下女お絹（島村）矢上妹お梨花（杉野）矢上政八（蜂松）

▲仁川本町四丁目松田文兵衛なる人の廣告に曰く一履物界破天荒の大廉賣と（民）（平）（文）（廉）（天）

▲食堂生に答ふ先づザット十圓を要す仁川よりしては船便によらば七圓三十錢程に…

●天氣豫報（自十九日午後六時至二十日午後六時）

南又は西の風曇後ち晴

十九日午前六時各地氣象概況

南の風吹き南部は曇天なれども京仁以北は概ね雨を告げ仁川には濃霧起れり

廣告

西の宮た樂の述懷（十八）

◎獨身者は眞赤な嘘

東座の座主を愈々此方のものにしてたへらへの面當てがヤット出來ましたので私も少し胸が納まり一座の藝妓の中へ出ても何となく肩身が廣くなつたやうな氣が致しましたがソレはホンの一時で此が抑々私が難義をする基で厶いました、サテ關係をつける前は勿論の事其の後顏を合せても此の男は何所迄も一人者といふ事で通して居りましたから私も其の氣で眞實の所夫婦になるつもりで萬事につけ費用を少くし可成徐々の爲めにと心掛けて居たので厶います、ソンナ工合でしたから其の男の家へは始終入り浸りで何や彼や世話を燒いて居ると其の男の一人者は眞赤な嘘で女房さんだといふ女がわざ〳〵東京から尋ねて參りまして「私の樣子をソレと覺り「お前さんも隨分な男ぢやないか私といふレッキとした女房があるに見りやア何處の馬の骨だか牛の皮だか分らないものを引きずり込んでフザけた眞似も大概にしとくが宜いのサ」と喰つて掛ると此方は亭主といふ權威を笠に着て「見ツともない靜にしろ……男の働で女の一人や二人拵へたからつてソレが何んだ落語家の言ひ草ぢやないが南京豆の袋と來てイヤに突かゝつて物を言はなくとも可いぢやアねーか恥晒しめが……」ときめ付ける、スルと女房さんの火の手が愈々強くなり「ハイどうせ私は南京豆の袋で厶いますのさ併しお前さんが仙台へ來た其の留守は憚りながらチャアンと守つて居りましたよ其の氣苦勞も知らないで土臭いスベタ藝妓に手を出すなんて……私やア口惜しくつて〳〵……」と女氣の直ぐに涙ぐむ「ベラ棒め女房が亭主の留守を守るのア神武以來れ定まりの定法だソレに何の不思議があるか……其の留守を守つて居る筈の女房が誰の免を受けて此の仙台迄出掛けて來たのだ」コンナ事があらうと思つて……イヤもうわしや此の胸が張り裂ける……意地ぎたなの薄情野郎……」「ナニ亭主に向つて野郎だ……」と日頃短氣な男で厶いますから突然女房の横つ面をグワンといふ程撲り付けましたから堪りません「エヽ打つたな……サアもつと打てサア……エヽイッソ殺して……」といふ騷ぎなのです、私も側に居つてソレを默つて見て居る譯には參りませんから双方を宥め又近所からも大勢人が來て仲裁に這入りましてマヅ其の場はどうやら納まりましたがサテ納まらぬは私の胸の中で三人とも只無言の睨らみくらべで厶いましたが私も何時まで其の家に居られもしませんから妙な工合で其の日は一と先づ自分の家へ引き取り長火鉢の前へ坐ると懷手をしたなり暫時思案に暮れましたが什麽考へ直して見ても胸のむしやくしやが消ゆやらず戸棚にあつた銚子を取り出して湯呑につぎ冷酒のまゝグット飮み干して外へ飛び出しました（續）